年間第7週・水曜日 57. 使徒職における一 致と多様性

年間第7週・水曜日

57. 使徒職における一致と多様性

- 一 使徒職活動において窮屈で排他的な考え方はキリスト信者の姿ではない。教会の使徒職は非常に様々な様相を呈している。
- あらゆるところにカトリック教会の教義を広める事。
- 一教会の中の一致と多様性。受け入れた召し出しへの忠実。

57.1 教会には様々な形の使徒職があ る

キリストの弟子たちは、キリストの弟子たちは、出して悪魔を追いにははないにはないにはないない。まれただいない。ながある子まではないただらとないない。ながある子まではないたがある子まではないがある。は追している者を見まいる者を見ましたがある。は追しています。

主はこの機会を活用して、あらゆる時代のすべての人に当てはまる教させをお与えになりました。「やめれたは言かない」。イエスは言かれた。「わたしの名を使って奇跡口が、そのすぐ後で、わたしの悪口がでいたちに逆られたしたちの味方なのでイはいる」」。この男は行いによってイレスへの深い生きた信仰を表しまし

た。キリストは彼を従う者として認め、使徒職に対する偏狭で閉鎖的な態度を非難なさいました。イエスは、彼の名によって行われる使徒職は、様々な多くの形をとるはずだと教えました。

信徒が教会を築き、世の中を聖化 し、キリストの内に生きるように説 く使徒職には、多くの形があります 2。 唯一の条件は、キリストと共に いること、教会と共にいること、そ してキリストの教えを告げ、イエス への愛を行いに表すことです。私た ちキリスト者の霊魂は、考えや行い が自分たちのやり方とどんなに違っ ていようとも、彼らを理解するよう に努め、また、その多様性を喜び、 最も種々様々な使徒職のやり方に、 道を開くように導かなければなりま せん。結果として、収穫は多いが、 主のぶどう畑で働く人は少ない³、

「他の人々が立派な使徒職に従事しているのを見たら喜びなさい。彼らのために豊かな神の恵みを願い、彼らがその恵みに応えるよう祈りなさい。それからあなたは、自(みずか)らの道を進みなさい。あなたにはこの道以外の道がないことを確信しなさい」 4。

信仰を本当に実行するキリスト者 が、自分自身の規定や行いに合わな い人を、ある種のライバルとみなす かのように、閉鎖的な精神を発揮す ることは信じられないこと、実際に はありえないことでしょう。正しい 意向に従って行動する限り、誰でも 有益な仕事を成し遂げます。私たち は皆、必要とされています。キリス トとその教えが知られる方法はたく さんあります。確かに、信仰と道 徳、秘跡、位階制への従順、聖性を 獲得するための通常の手段と規律の 卓越した規準において守られなけれ ばならない一致があります。しか

し、この貴重な一致は、聖アウグス チヌスの有名な原則です。すなわち 「必要な事柄においては一致、自由 に意見を述べる事ができる事柄にお いては自由、全てにおいて愛徳」 ⁵。言い換えれば、必要とされる一 致は、決して霊魂と使徒職の低下に 導く画一的なものであってはなりま せん。教会の庭にはいつでも、それ ぞれの香り、大きさ、形、色の珍し い美しい花があり、これからもいつ もあるでしょう⁶。 このすべての豊 かな多様性は、ただ神の栄光を高め るために奉仕します。

使徒的仕事に努力している時はいつでも、他の人々のイニシアティブを評価することで自分の時間を浪費する誘惑を避けなければなりません。他の人々がすることに注意を向けて、私たちは、神が与えてるかわりに、私たちは、神が与えてるださった才能を、最大限に役立ったくださった才能を、最大限に役うかなける。自分の心を調べ、知らなけ

ればなりません。人々のために神がお与えになった才能を活用しているかどうか糾明してみましょう。あなたにとって、あなたの道は唯一の道だと確信しなさい。

57.2 私たちは教会の教えをすべての 人にもたらす必要がある

キリストの教えは全世界に届かなければなりません。実際、現代では世界中に、かつてキリスト教国であったにもかかわらず、新しい福音化の

必要性のある地域が多くあります。 教会の使命は普遍的で、年代、文化 など、あらゆる条件の人々に受け入 れています。その信仰は、最初から 老いた人にも若い人にも、裕福な人 にも貧しい人にも、学問のある人に も学問のない人にも受け入れられま した。使徒たちとその後継者は、あ らゆる必要事において確実に一致が 保たれるようにと努力しました。し かし、教会はすべての改宗に関し て、無理やり画一性で拘束しようと 押しつけませんでした。同様にし て、使徒職は実に様々なチャンネル (手段)をとおして成し遂げられま した。ある人は著述によってキリス ト教を擁護する重要な働きをやり遂 げ、他の人々は人前や市場で説教 し、キリスト者の多くは家族や近所 の人々、友人、什事仲間の間で個人 的に使徒職を行いました。彼らに共 通しているのは、相互の愛、受けた 教義や秘跡に対する忠実さ、牧者に 従順であることです。

私たちは、種が実を結ばないようにするいばらを注意深く取って捨てながら、主の教えをすべての人にももらってとができます。「私たちキリスト者は、神が私たちに託した仕事において誰も除外しません。どの忠さません」。また、そのために聖聖ホセマリアは常に忠告をしました。

「個人的な状況がどうであろうと、すべての仕事仲間、さらにすべての人々と、しっかりした忠誠かつ忠実な、つまりキリスト教的な友情を結ぶ必要があります」。。

キリスト者への召し出しがあるので、キリスト者は、他の人々に心を開き、年齢、文化的背景、人間性や個性にかかわらず、最も異なる種類の人々を理解できるようになります。

祈りの中でイエスと親しく接するならば、身近な人のため、遠く離れた

57.3 教会の一致は画一性を意味する のではない

教会は、互いに全く異なってはいても、互いに固く一致している多くの構成員からなる人間の身体のようなものです。。この多様性は私たちの一致を脅かすどころか、むしろ最も大切な必要条件です。キリストの神秘体を築き上げるこれらの超自然的

聖霊は、一致と真の愛があるところ に働きます。聖霊は、各個人が自身を の道を歩み、愛の豊かさに向から うに示唆します。特別な超に行う を受けた人、固有な道に従うその に招かれた人は誰でも、その呼び に対して忠実をあることで、教でして なき上げるという貢献をする。 神がその人に現れ、出会われる 場所は、まさにこの貢献するところにおいてであり、他のどこでもありません。

主がお望みになる、すべての人はひ とつであるという一致は、誰かの人 間性を無視したり抑制したりしませ ん。むしろその向上を助長するもの です。個人の霊的生活の営みにも 様々なやり方があり、教会が論議し ようとそのまま保留にしている問題 に関する神学的考え方にも様々な可 能性があります。「あなたの従事す る使徒職が〈画一的(かくいつてき) でない〉ことを、私が承認している と知って、あなたは驚いていた。私 は次のように言ったのだった。一致 と多様性。天国の聖人たちがそれぞ れ独特の個性を備えているように、 あなたたちは各々異なっているはず である。と同時に、聖人たちと同じ く、あなたたちは互いに似ていなけ ればならない。聖人たち各々がキリ ストと同化していなければ、聖人に

主の教えは、私たちを、世俗の事柄 に存在する人間性や趣味、意見の正 当な相違を尊重するようにします。 私たちはこの違いを喜び、それらを 励ますことさえすべきです。主の教 えやその人自身の召命に反しないも の、それらを妨げないものは何で も、完全な自由に特徴づけられてい るはずです。各個人は好き嫌い、自 分や他の人の職業、さらに社会や学 問や政治に関する各々の考えに関し て、自由である権利を持っていま す。現代や歴史上のどの時代におい ても、私たちキリスト者は、キリス トに、キリストの愛とその教えに、 固く一致し、それぞれが受けている 召命に忠実であるべきです。また、 私たちは神の愛の火で燃えている石 炭のように、塩と光であるように努 力しながら、自分自身の才能と人格 を持って、キリストの真の弟子であ

るべきであり、一人ひとりは異なっているべきなのです。

¹マルコ9・39-40

² 第2バチカン公会議, Apostolicam actuositatem, 1 6

³マタイ9:37参照

⁴ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『道』965

⁵聖ヨハネ・パウロII世, Address to the Spanish Episcopal Conference, Madrid, 3 1 October 1 9 8 2

 $^{^{6}}_{-}$ 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter, 1 January 1 9 3 5

 $^{{7 \}atop -}$ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『拓』, 226

- [®] 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter, 9 January 1 9 5 1
- 9 1コリント12:13-27 参照
- Extraordinary Synod 1 9 8 5, Relatio finalis, II,C. 2
- ___ Extraordinary Synod 1 9 8 5, Relatio finalis, II,C. 2
- 13 聖ホセマリア・エスクリバー, 『道』, 947

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VII-sui/ (2025/12/12)